



第3分科会

私たちの暮らしと平和
辺野古の今…何が起きているのか
遠い話し？ いえ、今まさにあなたの未来です

助言者 斎藤美紀子
(辺野古キャンプシュワブゲート前スタッフ)

司会 藤井博子
記録 箕輪愛子

沖縄辺野古は今、世界的にも貴重な珊瑚礁もあり、その上、もろい岩盤で、工事が中止になっているにもかかわらず、当局は、工事が進んでいるかのようなデマと嘘で、県民の抗議を諦めさせようとしています。斎藤さんはそんな状況のなか、いても立ってもいられずに1ヶ月の半分は、農業をし、もう半分は年金のすべてを投じて、辺野古通いをし、辺野古座り込み支援を続けています。この分科会ではその内容も交えて報告をいたします。

(その1) 沖縄の歴史のこと

沖縄は元々、日本だったのかというとそうではなかった。江戸時代、沖縄は、文化も違う中国と交流していた。幕藩体制の仲で、薩摩藩が遠く、沖縄に目をつけて植民地としていた。琉球王朝時代は19代にわたり400年続き、武装しない国があるということで有名にもなっていたが、沖縄に吸収され、明治政府(明治4年廃藩置県を行った)の時から文化を日本的にされてしまった。1944年、日本本土も町が焼かれ、そのとき日本本土で

は、沖縄に敵が上陸してくるといわれ、沖縄の人々にはどうなるのか知らされず、ひたすら協力させられた。小学1年生の子どもたちは兵隊たちのために、草むしりや、タマネギなどの野菜づくり。4年生になると、飛行場を作る仕事などさせられ、5年生になると、お国のためにと洗脳され、時には、爆弾を腹に巻いて、自爆させられた。6割の子どもたちが人権無視の命令をされ、軍は、沖縄の人々に対して、方言を使うものは使い物にならないなどと罵倒した。劣悪な環境のなかで、人々は捕虜になっていった。捕虜になると、食料もくれていたことから、日本兵が奪いに来る。そんななか読谷村は、スパイ部落だと吹聴され、男性はめった切り、女性は、海岸に並べられ、殺害されるという悲惨な出来事がまかり通っていたのも現実で、沖縄は、ずっと差別され現在も続いている。この許しがたい行為に対する、政権、為政者の責任は、重い。

(その2) 沖縄の米軍基地の現状

沖縄に駐留する米軍のうち、ほとんどは海兵隊で、1950年代米国海兵隊は、岐阜県や、山梨県に駐留していました。その頃日本本土では米軍の演習場や基地の拡張に対する反発が強まっていました。一方沖縄は、サンフランシスコ講和条約により、奄美、小笠原とともに日本本土から切り離され、米軍の占領下に置かれていました。そして1956年、岐阜県などに駐留していた海兵隊がキャンプシュワブに移駐したのを皮切りに、海兵隊の多くは沖縄に駐留するようになりました。現在、日本の国土面積の0.6%の沖縄県に、在日米軍専用施設面積の74%が集中していて、沖縄本島面積の28.4%を占めており、その70%が北部に集中しています。また沖縄本島は県人口の約91%を占め、これら米軍基地は、都市機能、交通体系、産業振興、土地利用に大きな制約を与えています。

(その3) 代替施設建設事業 <辺野古崎>

日本政府は、世界一危険な飛行場と言われる普天間飛行場を閉鎖し、その代わりに施設を名護市辺野古崎地区及び、これに隣接する水域に建設することを計画しています。この施設の面積は、205 ㍓で、東京ディズニーリゾートの2倍以上あり、水面から10 ㍓の高さの壁状に建設されます。また埋め立て予定地や埋め立て土砂採取区域には、名護市の貴重な文化財（これまで、船のおもりに使う琉球王朝時代の船の廷石も発見されていて、

さらに古い遺跡も発掘される可能性もある) が点在しており、この施設が建設されれば、そのほとんどが消滅してしまいます。

(その4)「耐用年数200年、オスプレイ最大100機」の巨大新基地
辺野古の新基地は、ジュゴンや貴重な珊瑚が息づく辺野古・大浦湾を約1600畝、東京ドーム44個分の土砂約2100万 m^3 で埋め立てます。これは、名護市役所周辺の中心部がすっぽり埋め尽くされます。新基地には、普天間基地(宜野湾市)の米海兵隊機(約60機)が移転しますが、主力は回転翼機・オスプレイ(ヘリコプターと航空機の合体したもの)で、沖縄では、近年オスプレイの墜落、ヘリ炎上、部品の落下と危険な事故が相次いでいます。キャンプシュワブでは、大きな爆発音を伴う廃団弾処理や実弾射撃訓練、ヘリパッド使ったオスプレイやヘリの離着陸・旋回訓練等が、日常的に行われており、加えて、キャンプシュワブに隣接するキャンプハンセンや伊江島飛行場には、多くのヘリパッドが点在し、離発着するオスプレイ(24機)などが、訓練を行っているところから、爆発音や射撃音については最大値100デシベル(電車が通るときのガードレール下)を超え、80デシベル以上が1日で100回以上記録された日もあります。代替施設が建設されれば、シュワブ周辺の訓練が増加し、騒音が激化することが予想されます。

●意見交換の中で

*知人が沖縄にいて、壮絶な沖縄の歴史の一端を聞いたことがあります、今日のお話を聞いて、あまりの理不尽さに言葉もありません。人が、人類が、大切にされる世の中にしていかなければと思います。

*沖縄・辺野古への基地建設、新基地計画の陰で本当に多くの人々が、生活を脅かされ、苦しんでいることを知りました。沖縄ではこれまで、米軍機の墜落事故や米兵による暴行やひき逃げによる死亡事件などが、何度も繰り返され、それも治外法権により、うやむやにされる。本当にあってはならないことです。日本政府はいったいどこを向いているのか。

等々が出されました。この分科会に参加して、一人ひとりが生活者として、周りや基地問題などもっと関心を持ち、なんとしても平和を守り抜かなければとの思いを新たにしました。

